



車を運転するにあたって

車を運転するうえでの各部のはたらき、装置の
使いかた、運転の方法について説明しています。

■ メーターのはたらき

メーター	120
------	-----

■ 表示灯、警告灯のはたらき

表示灯	132
警告灯	137

■ スイッチの使いかた

スイッチの名称	145
ライティング スイッチ	146
光軸調整ダイヤル	149
方向指示レバー	150
非常点滅灯スイッチ	150
ワイパー・ウォッシャー スイッチ	151
フォグ ランプ スイッチ	153
リヤ ウインドウ デフォッガー スイッチ	154
VDC OFF スイッチ	154
「アイドリング ストップ」 OFF スイッチ	155
eco ドライブ モード スイッチ	156
ホーン スイッチ	156

■ 運転装置の使いかた

エンジン スイッチ	157
駐車ブレーキ	164
ターボ車	165
AWD 車	166

■ エンジンのかけかた

CVT 車	167
-------	-----

■ CVT 車の運転

CVT 車	170
セレクト レバーの操作	172
運転のしかた	174

■ アイドリング ストップ システム の使いかた

「アイドリング ストップ」	180
---------------	-----

■ 発電制御

発電制御	191
------	-----

■ 車両制御装置の使いかた

eco ドライブ モード	192
--------------	-----

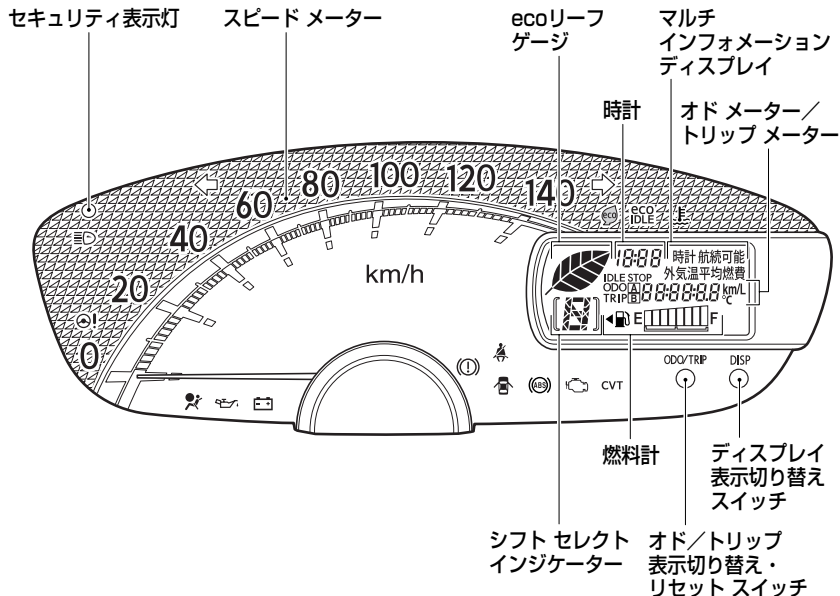


メーターのはたらき

メーター

タコメーター装着車以外

グレードの違い、オプションも含まれています。



○メーター照明

- 車幅灯に連動して点灯・消灯します。
- 車幅灯が消灯している状態で、電源が“ACC”または“OFF”のときは、ドア連動機能により点灯・消灯します。

(ドア連動機能→ 226 ページ)

👉 アドバイス

- メーター照明の照度は調整することができます。

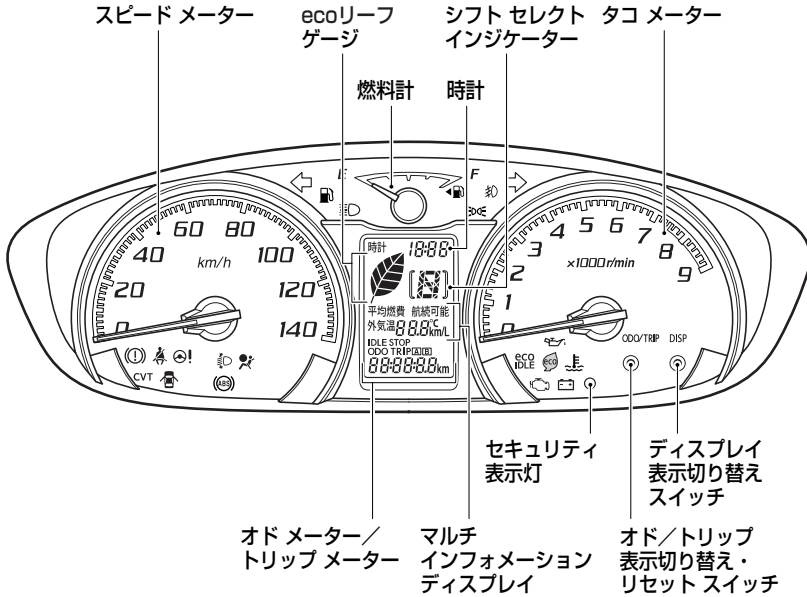
(照度調整→ 125 ページ)



タコメーター装着車

ターボ車以外

グレードの違い、オプションも含まれています。



○メーター照明

- 電源が“ON”のとき、車幅灯の点灯・消灯に関わらず点灯します。
- メーター照明が点灯しているときに車幅灯を点灯させると、メーター照明が減光します。

👉アドバイス

- ライトの点灯・消灯の確認は、ライティングスイッチ表示灯で行ってください。
(ライティングスイッチ表示灯→ 133 ページ)
- メーター照明の照度は調整することができます。また、車幅灯を点灯させたときに、減光しないようにすることもできます。

(照度調整→ 125 ページ)

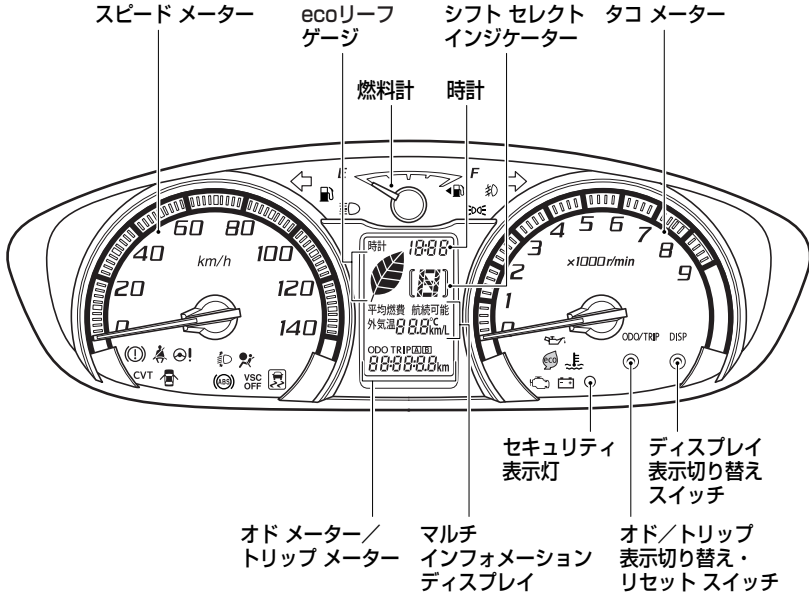


車を運転するにあたって メーターのはたらき

タコメーター装着車

ターボ車

グレードの違い、オプションも含まれています。



○メーター照明

- 電源が“ON”のとき、車幅灯の点灯・消灯に関わらず点灯します。
- メーター照明が点灯しているときに車幅灯を点灯させると、メーター照明が減光します。

👉アドバイス

- ライトの点灯・消灯の確認は、ライティングスイッチ表示灯で行ってください。
(ライティングスイッチ表示灯→ 133 ページ)
- メーター照明の照度は調整することができます。また、車幅灯を点灯させたときに、減光しないようにすることもできます。

(照度調整→ 125 ページ)



スピード メーター

走行速度をkm/hで表示します。

オド メーター／ トリップ メーター

電源が“ON”のとき、表示されます。

○オド メーター（積算距離計）

走行した総距離を表示します。

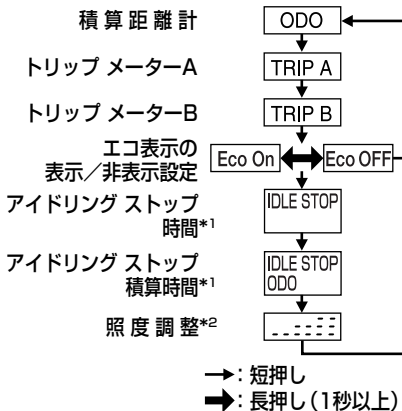
○トリップ メーター（区間距離計）

リセットした地点からの走行距離を表示します。

トリップ メーターは、同時に2つの区間の走行距離を表示することができます。

○オド／トリップ表示切り替え・ リセット スイッチ

▼表示を切り替えるには
スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。



*1 「アイドリングストップ」装着車のみ

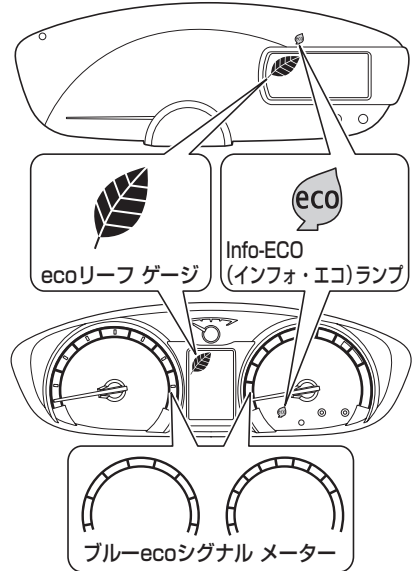
*2 車幅灯が点灯しているときに表示されます。

▼トリップ メーター表示をリセットするには
リセットするトリップ メーター（AまたはB）を表示させ、スイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

エコ表示の表示／非表示設定

エコ表示の“Eco On”、“Eco OFF”を
切り替えることで、下記のエコ表示の表
示、非表示を切り替えることができます。

（エコ表示→ 130 ページ）






車を運転するにあたって メーターのはたらき


▼切り替え方法

1. オドノトリップ表示切り替え・リセットスイッチを押して、“Eco On”（または“Eco OFF”）を表示します。
2. オドノトリップ表示切り替え・リセットスイッチを約1秒以上押し続けるごとに、“Eco On”、“Eco OFF”が切り替わります。


○Info-ECO（インフォ・エコ）ランプ

表示設定	
Eco On	二酸化炭素排出量の少ない、環境にやさしい運転をしていると点灯します。
Eco OFF	常時消灯します。

○ecoリーフ ゲージ

表示設定	
Eco On	二酸化炭素排出量の少ない、環境にやさしい運転をしていると目盛りが増えます。
Eco OFF	全ての目盛りが消灯します。

○ブルーecoシグナル メーター オプション/グレード別装備

表示設定	
Eco On	二酸化炭素排出量の少ない、環境にやさしい運転をしていると、スピードメーターとタコメーターの目盛りが白色から青色に変わっていきます。
Eco OFF	目盛りの色は白色のままです。

アイドリング ストップ時間

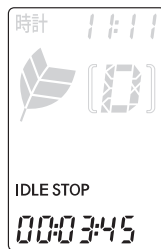
「アイドリング ストップ」装着車

電源を“ON”にしてからのアイドリングストップ時間を表示します。

タコメーター装着車以外



タコメーター装着車



▼アイドリング ストップ時間表示のリセットについて

電源を“OFF”にすると、表示がリセットされます。リセット後、電源を“ON”にすると、表示が“00:00:00”になります。

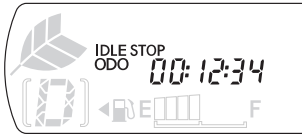


アイドリング ストップ積算時間

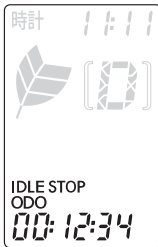
「アイドリング ストップ」装着車

表示をリセットしてからのアイドリング
ストップ積算時間を表示します。

タコメーター装着車以外



タコメーター装着車



▼アイドリング ストップ積算時間表示をリセ
ットするには
アイドリング ストップ積算時間を表示さ
せ、オドノトリップ表示切り替え・リセ
ット スイッチを押し続けると、表示が
“00:00:00” になります。

照度調整

照度調整表示中、オドノトリップ表示切
り替え・リセット スイッチを約1秒以上
押し続けている間、メーター照明の明る
さが下表のように変わります。

明るさ	表示	照度レベル
明るい	— — — — —	レベル1
↑ ↓	— — —	レベル2
	— —	レベル3
	—	レベル4
暗い		

アドバイス

- 電源が“ON”で、車幅灯が点灯してい
るときのみ、照度調整を表示させるこ
とができます。

タコメーター装着車

- “レベル 1”に設定すると、車幅灯を
点灯させたときに、メーター照明が減
光しません。



車を運転するにあたって メーターのはたらき

燃料計

電源が“ON”のとき、燃料残量を表示します。

燃料残量が2WD車は約6ℓ、AWD車は約5.5ℓ以下になると、タコメーター装着車以外は燃料計の一番左の目盛りと燃料残量警告灯が点滅し、タコメーター装着車は燃料残量警告灯が点灯します。

(燃料残量警告灯→ 141 ページ)

⚠注意

燃料残量警告灯が点滅・点灯した場合

- ただちに燃料を補給してください。燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

タコメーター

オプション/グレード別装備

1分間当たりのエンジン回転数を示します。

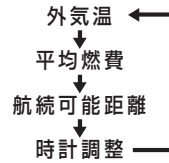
⚠注意

- 指針が赤色表示域（エンジンが許容回転数を超える範囲）に入らないよう運転してください。赤色表示域に入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。

マルチ インフォメーション ディスプレイ

電源が“ON”のとき、ディスプレイ表示切り替えスイッチを押すごとに、表示を切り替えることができます。

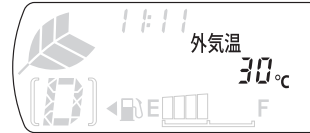
▼切り替わりかた



○外気温

外気温度を表示します。

タコメーター装着車以外



タコメーター装着車





👉 アドバイス

- ほかの計測装置により計測した外気温とは、異なることがあります。
- 電源を“ON”にした直後の表示は、ブランク表示です。
- 表示範囲は、「-30~50℃」です。
- 外気温表示が 3℃以下になると、数字が点滅しますが、電源を“ON”にしたときに、すでに 3℃以下の表示の場合、点滅しません。
- 異常検出したときの表示は、「-℃」です。
- 下記の場合は、正しい外気温が表示されないことがあります。
 - ・ 停車しているときや低速走行しているとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

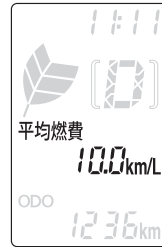
○ 平均燃費

表示をリセットしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。

タコメーター装着車以外



タコメーター装着車



👉 アドバイス

- 電源を“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 最大表示は、「99.9km/L」です。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、ブランク表示になります。
- 給油後、約 2km/h以上の速度になると、自動でリセットされ（表示が 0.0 になります）。自動でリセットされない場合は、平均燃費を表示させているときに、ディスプレイ表示切り替えスイッチを押し続けるとリセットされます。



車を運転するにあたって メーターのはたらき

○ 航続可能距離

現在の燃料残量と過去の燃費から航続可能距離を算出します。

タコメーター装着車以外



タコメーター装着車



⚠ 注意

- 航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら、早めに燃料を補給してください。

📖 アドバイス

- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 最大表示は、「999km」です。
- 異常検出したときの表示は、しばらくブランク表示になることがあります。
- バッテリーとの接続が断られたときは、学習した燃費はリセットされません。



○時計調整

ディスプレイ表示切り替えスイッチで、時刻を調整することができます。ディスプレイに「時計」の文字が表示されます。

タコメーター装着車以外



タコメーター装着車



👉 アドバイス

- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断られたときは、時計表示がリセットされ、1:00になります。

▼ “分”表示を「:00」にするには

1. ディスプレイ表示切り替えスイッチを押して、ディスプレイに「時計」の文字を表示させます。
 2. スイッチを約 1 秒以上押し続けて、時計表示を点滅させてから手を離します。
 3. 再度スイッチを約 1 秒以上押し続けます。
- “分”表示が「30」未満の数字のときは、“時”表示の数字が変わりません。例えば、10:20 は 10:00 になります。
 - “分”表示が「30」以上の数字のときは、“時”表示の数字が 1 つ増えます。例えば、10:45 は 11:00 になります。

👉 アドバイス

- 調整後、マルチインフォメーションディスプレイは外気温の表示に切り替わります。

▼ 時計の調整方法

1. ディスプレイ表示切り替えスイッチを押して、ディスプレイに「時計」の文字を表示させます。
2. スイッチを約 1 秒以上押し続けると、時計調整モードになり、時計表示が点滅します。

👉 アドバイス

- 時計表示が点滅している状態で、約 10 秒間何も操作を行わないと、時計表示に戻ります。



車を運転するにあたって メーターのはたらき

3. 時計表示が点滅している状態で、スイッチをもう一度押すと、分表示が点滅し、“分”調整モードになります。
- “分”調整モードで、スイッチを押すごとに、“分”表示が1つずつ大きくなります。



アドバイス

- スイッチを押し続けると、連続して数字が大きくなります。

4. “分”調整モードで、約5秒間何も操作を行わないと、時表示が点滅し、“時”調整モードになります。
- “時”調整モードで、スイッチを押すごとに、“時”表示が1つずつ大きくなります。



アドバイス

- スイッチを押し続けると、連続して数字が大きくなります。

5. “時”調整モードで、約5秒間何も操作を行わないと、時計表示に戻ります。



アドバイス

- 調整後、マルチインフォメーションディスプレイは外気温の表示に切り替わります。

エコ表示

エコ表示の表示／非表示の設定が“Eco On”のときに、走行状態に応じてエコ運転（二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転）の度合いを判定し、エコ表示が変化します。

（エコ表示の表示／非表示設定
→ 123 ページ）

○Info-ECO（インフォ・エコ）ランプ

電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

走行状態に応じて点灯、消灯します。

- 走行速度にあったアクセルペダルの操作でエコ運転をしていると、点灯します。



アドバイス

「アイドリングストップ」装着車

- アイドリングストップ中は点灯します。

（「アイドリングストップ」
→ 180 ページ）

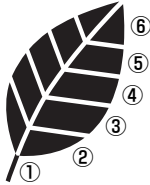


○ecoリーフ ゲージ

電源を“ON”にすると、全ての目盛りが数秒間点灯します。

走行状態に応じて、目盛りが図の①～⑥の6段階で増減、または消灯します。

- 走行速度にあったアクセルペダルの操作でエコ運転をしていると、目盛りが増えます。



アドバイス

- 目盛りが5段階以上点灯すると、Info-ECO（インフォ・エコ）ランプが点灯します。

「アイドリングストップ」装着車

- アイドリングストップ中は、すべての目盛りが点灯します。

（「アイドリングストップ」
→ 180 ページ）

○ブルーecoシグナル メーター

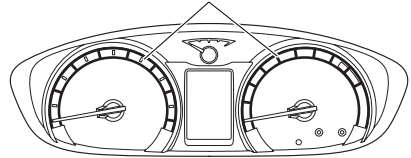
オプション/グレード別装備

電源を“ON”にすると、スピードメーターとタコメーターの目盛りが数秒間青色に点灯します。

走行状態に応じて、スピードメーターとタコメーターの目盛りの色が変わります。

- 走行速度にあったアクセルペダルの操作でエコ運転をしていると、目盛りの色が、白色から青色に変わっていきます。

ブルーecoシグナルメーター





表示灯、警告灯のはたらき

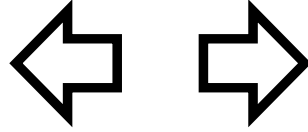
表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

⚠注意

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

方向指示器表示灯



○方向指示器表示灯

電源が“ON”で、方向指示灯を点滅させると、同時に点滅します。

○非常点滅表示灯

電源に関係なく、非常点滅灯を点滅させると、同時に点滅します。



アドバイス

点滅する間隔が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。



ハイビーム/パッシング表示灯



電源に関係なく、ヘッドランプを上向き
の状態にすると点灯します。

ライティング スイッチ表示灯

オプション/グレード別装備



電源に関係なく、車幅灯が点灯している
ときに点灯します。

フォグランプ表示灯

オプション/グレード別装備



電源に関係なく、フォグランプを点灯さ
せると点灯します。

(フォグランプスイッチ
→ 153 ページ)

水温表示灯 (緑色)



- 電源が“ON”で、エンジン冷却水温
が低いとき、緑色に点灯します。
- 電源が“ON”で、暖機を十分続けて
いても、水温センサー等に異常がある
と点滅、または点灯したままになりま
す。

⚠注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な
空ぶかし、急加速、高速走行はしな
いでください。

暖機を十分続けていても緑色に点滅・点灯し
たままの場合

- ただちにスバル販売店で点検を受け
てください。

👉アドバイス

エンジン冷却水温が異常に高いときは

- 水温警告灯としてはたらき、赤色に点
滅・点灯します。

(水温警告灯 (赤色) → 139 ページ)



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

セキュリティ表示灯

キーレス アクセス装着車

- 電源を“ACC”から“OFF”にして、イモビライザー機能を作動させると点滅します。
- 電源を“OFF”から“ACC”にして、イモビライザー機能を解除すると消灯します。

(イモビライザー機能→ 164 ページ)

⚠注意

- アクセス キーによりエンジンを始動した場合、電源が“ACC”、または“ON”で、下記のことを行うと、表示灯が高速で点滅し、警告ブザー（室内は「ピピピピピ」、室外は「ピッピッピッ」という音）が鳴ることで、アクセス キーの持ち出しを警告します。
(警告ブザー、メーター表示による警告 → 92 ページ)
- いずれかのドアを一度開けて、アクセス キーを車室内アンテナの作動範囲外に移動させ、ドアを閉めたとき。
(作動範囲→ 160 ページ)
- また、アクセス キーを車室内アンテナの作動範囲外に置いたまま、運転席ドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われることがあります。

📖 アドバイス

- セキュリティ表示灯は盗難警報装置と兼用しているため、キーレス アクセス操作・電波式リモコン ドア ロックによりドアを施錠すると、約 30 秒間点灯にかかります。
また、盗難警報装置が解除されていない場合は、電源を“ACC”にしても消灯しない場合があります。

プッシュ エンジン スイッチを押すと、高速で点滅した場合

- アクセス キーが車室内アンテナの作動範囲外にあることが考えられます。運転者はアクセス キーを身に付けてください。
それでも消灯しない場合、電池が消耗しているおそれがあります。早めに電池を交換してください。
(キーの電池交換→ 283 ページ)

電波式リモコン ドア ロック装着車

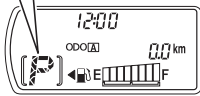
(盗難警報装置→ 99 ページ)



シフト セレクト インジケーター

タコメーター装着車以外

(P)(R)(N)(D)(S)(B)



タコメーター装着車

(P)(R)(N)(D)(S)(B)



- 電源が“ON”のとき、使用中のセレクトレバーの位置が点灯します。
- Rレンジにすると、“[]”が点滅します。

Info-ECO (インフォ・エコ) ランプ



(エコ表示 → 130 ページ)

VDC* OFF表示灯

VDC装着車

VSC OFF

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VDC OFFスイッチを3秒以上押すと、VDC (TRCを含む) が作動停止状態となり点灯します。
(VDC OFFスイッチ → 154 ページ)

△注意

- 電源を“ON”にしても点滅したままの場合は、システムの異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。

* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control (ビークルダイナミクスコントロール) の略です。



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

VDC*作動表示灯

VDC装着車



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、VDC OFFスイッチを押して、TRCを“OFF”の状態にすると点灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムが作動した場合に点滅します。

▼点滅するシステム

- VDC
(VDC→ 77 ページ)
- TRC
(TRC→ 78 ページ)

⚠注意

- 電源を“ON”にしても点灯しないとき、または点灯したままの場合は、システムの異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- VDC作動表示灯が点滅した場合は、VDC、またはTRCが作動していますので特に慎重に運転してください。

○作動警告ブザー

車両が横滑りしそうになったときにブザー（断続音）が鳴ります。



アドバイス

- 運転状況によっては、VDC作動表示灯の点滅のみで警告する場合があります。

「アイドリング ストップ」* 表示灯

「アイドリング ストップ」装着車

eco IDLE

（「アイドリング ストップ」
表示灯／警告灯→ 185 ページ）

* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCIは、Vehicle Dynamics Control（ビークルダイナミクス コントロール）の略です。

* 本書では、eco IDLEを「アイドリング ストップ」と表記しています。



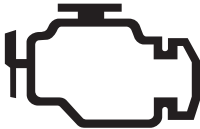
警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告します。

⚠注意

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 電源を“ON”にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

オイル プレッシャー警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジン オイルの圧力に異常があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。ただちにスバル販売店にご連絡ください。

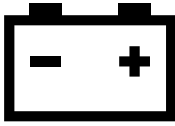
👉 アドバイス

- オイル プレッシャー警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイル レベル ゲージで行ってください。（オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンス ノート」参照）



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

チャージ警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

👉アドバイス

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。

ブレーキ警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。
- 電源が“ON”で、下記の場合に点灯します。

▼点灯理由

- 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液の液量が不足しているとき
- EBD制御に異常があるとき

▼駐車ブレーキが解除されている場合

電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

○警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。



△注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

エンジン回転中、駐車ブレーキを解除しても、点灯したまま消灯しない場合

- ブレーキ液量の不足が考えられます。この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

水温警告灯（赤色）



- 電源を“ON”にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

△注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。

（オーバーヒートの処置
→ 258 ページ）

👉 アドバイス

エンジン冷却水温が低いときは

- 水温表示灯としてはたらき、緑色に点灯します。

（水温表示灯（緑色）→ 133 ページ）

○警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

👉 アドバイス

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯に変わると同時に連続音に変わります。



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

CVT警告灯

CVT

- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、CVTシステムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- CVTシステムの異常が考えられます。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

シートベルト警告灯（運転席）



- 電源が“ON”で、運転席側シートベルトを装着していないと点滅します。
- シートベルトを着用すると消灯します。

○警告ブザー

シートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

👉アドバイス

- 1 度警告ブザーが鳴ると、たとえ約 20km/h以下で走行しても、約 2 分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシートベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の早さが変わります。



半ドア警告灯



電源に関係なく、いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを完全に閉めると消灯します。

△注意

- 警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

燃料残量警告灯

タコメーター装着車以外



電源が“ON”のとき、燃料残量が2WD車は約6ℓ、AWD車は約5.5ℓ以下になると、燃料計の一番左の目盛りと燃料残量警告灯が点滅し、さらに燃料が少なくなると点滅が早くなります。

タコメーター装着車



電源が“ON”のとき、燃料残量が2WD車は約6ℓ、AWD車は約5.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点灯します。

(燃料計→126ページ)

△注意

点滅・点灯した場合

- ただちに燃料を補給してください。燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

👉 アドバイス

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点滅（タコメーター装着車は点灯）することがあります。



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

ABS警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、ABSに異常があると点灯します。

⚠注意

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABSに異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

👉アドバイス

- エンジン始動後に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。

SRSエアバッグ警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
(SRSエアバッグ→ 63 ページ)
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテンシールド エアバッグ
(オプション/グレード別装備)
(SRSサイド エアバッグ&SRSカーテンシールド エアバッグ→ 69 ページ)
- プリテンショナー機構
(プリテンショナー機構
→ 51 ページ)

⚠注意

点灯した場合

- 車両にできるだけショックをあたえずに走行し、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



オート レベライザー警告灯

HIDヘッド ランプ装着車



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、ロービームのオートレベリング機能に異常があると点灯します。
(ロービーム・オートレベリング機能 → 148 ページ)

⚠注意

走行中に点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを止めてください。再度電源を“ON”にしたとき、警告灯が数秒間点灯したあとに消灯すれば、そのまま走行することができます。消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

ステアリング制御警告灯



- 電源を“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- エンジンが回転中で、電動パワーステアリングシステムに異常があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

アドバイス

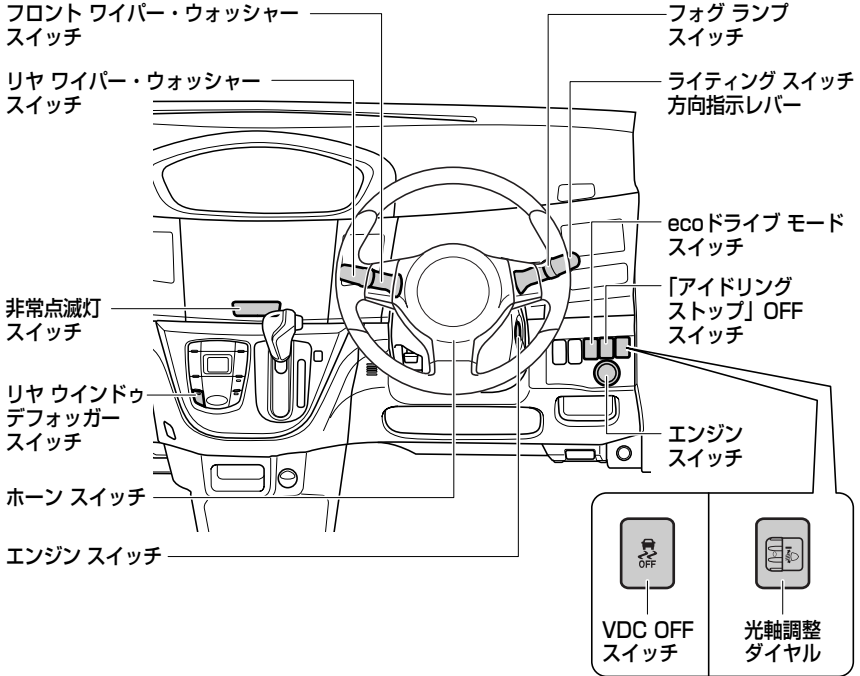
- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。
これは、パワー ステアリング モーターが作動しているときの音で、異常ではありません。
- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するため、パワー ステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。
この場合、しばらくハンドル操作を控えてください。
ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。
- 停車中に長時間、エンジンの空ぶかしを行ったときは、警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなりますが、エンジンを再始動し、走行を開始すれば警告灯は消灯し、通常の重さに戻ります。



スイッチの使いかた

スイッチの名称

グレードの違い、オプションも含まれています。





車を運転するにあたって スイッチの使いかた

ライティング スイッチ

自動点灯・消灯

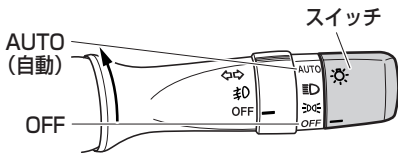
オート ライト装着車

周囲の明るさに応じてヘッド ランプ、車幅灯などが自動で点灯・消灯します。

▼操作方法

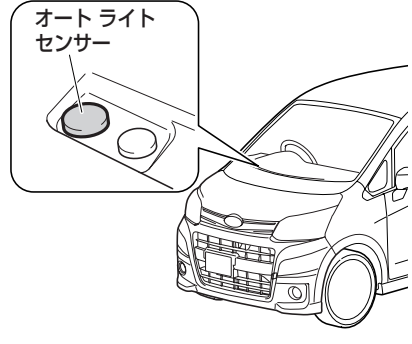
スイッチを“AUTO”の位置にします。

- エンジンを停止し、運転席ドアを開けると、自動的に消灯します。
電源を“ON”にすると、再び点灯します。



アドバイス

- オート ライト センサーの上に物を置いたり、ガラス クリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

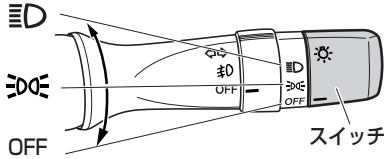




ランプの点灯

▼操作方法

スイッチを回すと、下表のランプ類が点灯します。



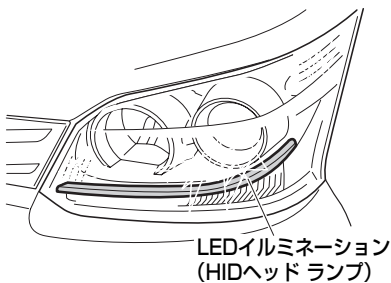
ランプ スイッチ位置	ランプ	
	前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯
OFF	—	—
↓	—	点灯
↑	点灯	点灯

⚠注意

- エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

カスタム仕様車

- ライティングスイッチが“↓”、または“↑”の位置のときは、ヘッドランプ内のLEDイルミネーション（HIDヘッドランプ）も点灯します。



ランプの消灯

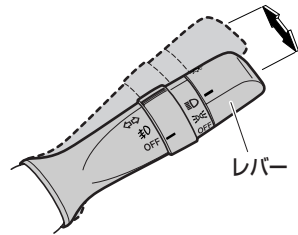
▼操作方法

スイッチを“OFF”の位置にします。

ヘッドランプの切り替え

▼操作方法

ライティングスイッチが“↑”の位置のときレバーを押すと、前照灯が上向き（ハイビーム）になり、戻すと下向き（ロービーム）になります。



⚠注意

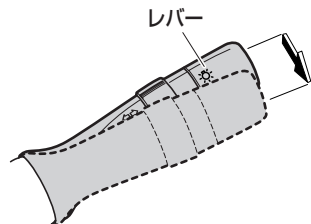
- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や歩行者の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

▼一時的に使用する場合

👉アドバイス

- 前照灯が上向きのときは使用できません。

レバーを手前に引いている間、前照灯が上向きに点灯します。





車を運転するにあたって スイッチの使いかた

ランプ消し忘れ警告ブザー

ランプを点灯したままで、運転席のドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りランプの消し忘れを知らせます。

アドバイス

- 電源が“ON”のときは、ブザーは鳴りません。

HIDランプ

オプション/グレード別装備

HIDランプは、ランプ管内のガスと金属ヨウ化物物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

警告

- HIDランプのバルブ・コネクター・電源回路・光軸調整部分を分解したり、取り外したりしないでください。HIDランプは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いをすると、やけどや感電をするおそれがあり危険です。ランプを交換・修理・廃棄するときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

アドバイス

- HIDランプが点滅を繰り返すようになると電球の寿命が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。
- 衝突などでランプ周りに衝撃を受けた場合は点灯装置も衝撃を受け正常に作動しなくなっているおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。
- システムの異常により電圧がHIDランプの作動電圧範囲から外れたときは、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
- 点灯中に作動電圧範囲から外れたときは消灯し、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
- 点灯操作をするときに作動電圧範囲から外れているときは、ライティングスイッチを操作しても点灯しません。

○ロー ビーム・オート レベリング機能

乗員数や積載量などの車両姿勢の変化に対して、ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）の上下方向を自動的に調整する装置です。

アドバイス

- エンジンを始動して、初めてヘッドランプを点灯したとき、システムの正常な作動をチェックしているため、ヘッドランプの光軸が動くことがありますが、異常ではありません。
- ヘッドランプの光軸に異常を感じたときは、スバル販売店で点検を受けてください。



光軸調整ダイヤル

ハロゲン ヘッド ランプ装着車

ヘッド ランプが点灯しているときに使用
できます。

乗員数や積載量によって車両の姿勢が変
化し、ヘッド ランプの光軸（光の照らす
方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回
すことで光軸を下向きに調整すること
ができます。

通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上
向きの位置）で使用します。

アドバイス

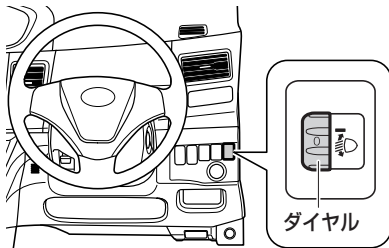
HIDランプ装着車

- ヘッド ランプの光軸は自動的に調整
されるため、光軸調整ダイヤルは装着
されていません。

▼操作方法

ダイヤルを回転させると、ヘッド ランプ
の光軸が上下に変わります。

ダイヤルの数字が大きいほど下向きにな
ります。



アドバイス

- 乗員数などに応じて、下表を目安にダ
イヤルを調整してください。

乗車や荷室の 積載状況	ダイヤル位置	
	2WD	AWD
運転席のみ乗車時	0	0
運転席と助手席に乗車時	0	0
4名乗車時	1.5	1.5
4名乗車で荷室満載時	3.5	3
運転席のみ乗車で 荷室満載時	4.5	4

- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤ
ルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、
ダイヤルを“0”にしてから行ってく
ださい。



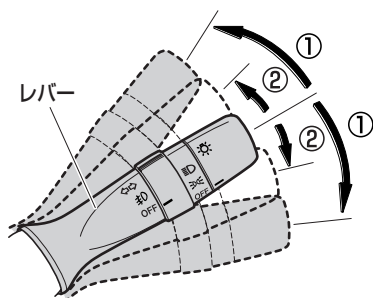


車を運転するにあたって スイッチの使いかた

方向指示レバー

▼操作方法

レバーを①の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。車線変更などのときには、レバーを②の位置まで軽く上下に押すと点滅し、手を離すと消灯します。



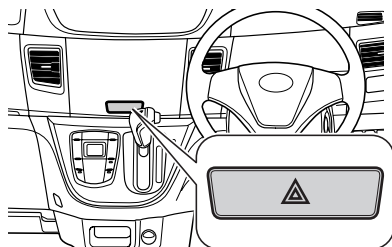
👉アドバイス

- ハンドルの切れ角が小さいと、レバーが自動的に戻らないときがあります。手で戻してください。
- 点滅が異常に早くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

非常点滅灯スイッチ

▼操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。



⚠️注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。
- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因となります。



ワイパー・ウォッシャー スイッチ

△注意

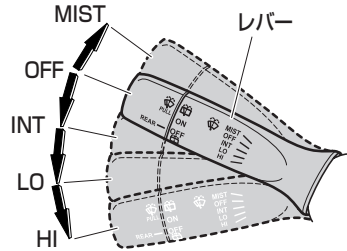
- 空ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。
- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。
- 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパー ゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパー モーターが損傷し、故障の原因になります。
- 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパー モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャー液を噴射させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けしないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

フロント

電源が“ON” のとき使用できます。

○ワイパーの使いかた

レバーを下げると、ワイパーが作動します。



MIST	一時作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

📖 アドバイス

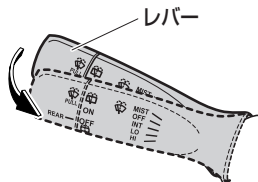
- MIST（一時作動）はレバーを“OFF”から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと“OFF”に戻ります。



車を運転するにあたって スイッチの使いかた

○ウォッシャー液の噴射

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。



👉 アドバイス

- フロント ウォッシャーを作動させると連動してフロント ワイパーが低速作動します。

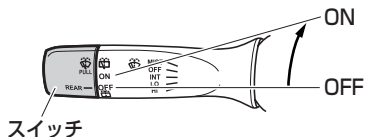
リヤ

電源が“ON” のとき使用できます。

○ワイパーの使いかた

スイッチを“ON”の位置に回すと、リヤワイパーが作動します。

- 約 4 秒間低速作動し、その後、間欠作動します。



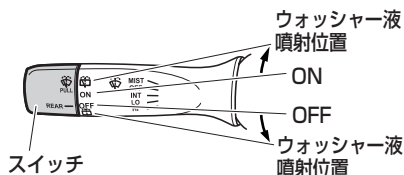
👉 アドバイス

- 下記のように、間欠作動の機能を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- 間欠作動の間隔を変更する
- 間欠作動の機能を停止し、低速作動のみ続けるようにする

○ウォッシャー液の噴射

リヤ ワイパー作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、スイッチを“ON”の位置から上側の“ウォッシャー液噴射位置”に回します。

また、スイッチを“OFF”の位置から下側の“ウォッシャー液噴射位置”に回しても噴射します。





アドバイス

- 上側の“ウォッシャー液噴射位置”に戻すと、連動してリヤ ワイパーが低速作動します。

○リバース連動リヤ ワイパー

フロント ワイパーが作動中、または作動後約 10 秒以内に、セレクト レバーをⓂにすると、リヤ ワイパーが数回作動します。

アドバイス

- 下記の場合、セレクト レバーをⓂにしても、リヤ ワイパーは作動しません。
- フロント ワイパーが作動後、約 10 秒以上経過しているとき
- フロント ウォッシャーを作動させてから約 10 秒以内のとき
- 機能を停止することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

フォグ ランプ スイッチ

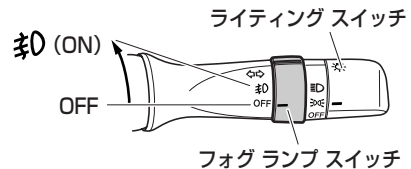
オプション/グレード別装備

夜間の雨、霧のような天候のときにご利用ください。

▼操作方法

車幅灯が点灯しているとき、スイッチを“ON”にすると、メーター内のフォグランプ表示灯が点灯し、フォグランプが点灯します。

消灯するときは、スイッチを“OFF”にしてください。フォグランプ表示灯も消灯します。





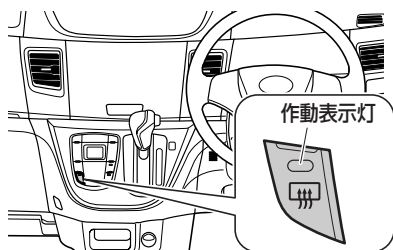
車を運転するにあたって スイッチの使いかた

リヤ ウィンドウ デフォグガー スイッチ

リヤ ウィンドウ ガラスの曇りを取るときに使用します。

▼操作方法

スイッチを押すと作動表示灯が点灯し、リヤ ウィンドウ ガラス・電動格納式ヒーター ドア ミラー装着車はドア ミラーが暖められ曇りが取れます。作動を停止するときは、スイッチをもう一度押ししてください。作動表示灯も消灯します。



🔧 アドバイス

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。
- リヤ ウィンドウ ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。
- スイッチを押すと約 15 分間作動します。

VDC* OFFスイッチ

オプション/グレード別装備

VDCやTRCは新雪路、深雪路、砂地等からの脱出には適さない場合があります。このようなときはVDC OFFスイッチを押してVDCやTRCを“OFF”にします。

(VDC→ 77 ページ)

(TRC→ 78 ページ)

○VDCを“OFF”にする場合

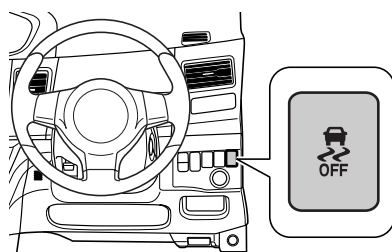
▼操作方法

電源が“ON”のとき、スイッチを3秒以上押し続けるとVDC（TRCを含む）が“OFF”になり、メーター内のVDC作動表示灯とVDC OFF表示灯が点灯します。

“ON”（作動可能状態）にするときは、スイッチをもう一度押ししてください。VDC作動表示灯とVDC OFF表示灯も消灯します。

(VDC作動表示灯→ 136 ページ)

(VDC OFF表示灯→ 135 ページ)



* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control（ビークルダイナミクス コントロール）の略です。



○TRCを“OFF”にする場合

▼操作方法

電源が“ON”のとき、スイッチを押すとTRCが“OFF”になり、メーター内のVDC作動表示灯が点灯します。

“ON”（作動可能状態）にするときは、スイッチをもう一度押してください。

VDC作動表示灯も消灯します。

（VDC作動表示灯→ 136 ページ）

**「アイドリング ストップ」*
OFFスイッチ**

「アイドリング ストップ」装着車

（「アイドリング ストップ」
OFFスイッチ→ 187 ページ）

* 本書では、eco IDLEを「アイドリング ストップ」と表記しています。



車を運転するにあたって スイッチの使いかた

ecoドライブ モード スイッチ

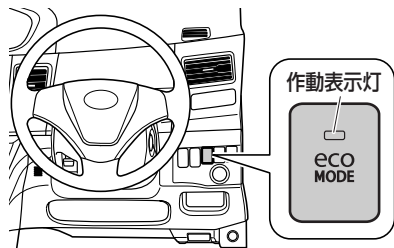
ecoドライブ モードの“ON”、“OFF”を切り替えます。

(ecoドライブ モード→ 192 ページ)

▼操作方法

スイッチを押すと、作動表示灯が点灯し、ecoドライブ モードが“ON”になります。

“OFF”にするときは、スイッチをもう一度押してください。作動表示灯が消灯します。



ホーン スイッチ

ハンドルの H マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

アドバイス

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。



運転装置の使いかた

エンジン スイッチ

⚠警告

- 走行中は、エンジン スイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンをかけるときやオーディオを聞くときなどに使用します。

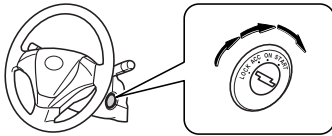
⚠注意

- エンジンを止めた状態で、電源を“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。バッテリーあがりの原因になります。

キー差し込みタイプ

キーレス アクセス装着車以外

挿入口にキーを差し込んで回し、エンジンの始動、停止を行います。



位置	はたらき
LOCK	・電源“OFF” エンジン停止 キーを抜き差しする位置です。 キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC	・電源“ACC” エンジン停止 オーディオが聞ける位置です。
ON	・電源“ON” エンジン停止 すべての電装品が使用できます。 ・電源“ON” エンジン回転 通常走行中の位置です。
START	・電源“ON” エンジン始動 エンジンを始動するときの位置です。手を離すと自動的に“ON”の位置に戻ります。

⚠注意

- エンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。“START”の位置にしたまましていると、エンジンを損傷するおそれがあります。

👉アドバイス

- キーは確実にエンジン スイッチに差し込んで操作してください。

ハンドル ロックを解除するには

- キーが“LOCK”から“ACC”の位置に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。





車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

プッシュ エンジン スイッチ

キーレス アクセス装着車

⚠注意

- 走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けないでください。ドアを開けるとハンドルロックが作動する可能性があります危険です。安全な場所に停車させたあと、ただちに、スバル販売店にご連絡ください。
- スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、ただちに、スバル販売店にご連絡ください。
- スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
- スイッチに飲み物などをこぼさないでください。万一、こぼした場合は、ただちにスバル販売店にご連絡ください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、スイッチの表面が熱くなる場合がありますので、やけどをしないように気をつけてください。
- 車幅灯を点灯させても、スイッチの照明が点灯しないときは、スバル販売店にご連絡ください。

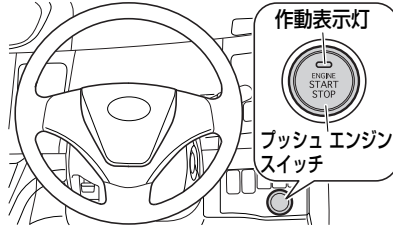
⚠注意

- 車両は常に電源の状態（“ACC”または“ON”）を記憶しているため、車両のバッテリーを再接続したときは、電源が絶たれる前の電源の状態に復帰します。修理などで車両のバッテリーを外すときは、必ず電源を“OFF”にしてから行ってください。
車両のバッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前の電源の状態がわからないときは、一度電源を“OFF”にしてください。
- 車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約10秒以上待ってからエンジンを始動してください。
- セレクトレバーがPレンジのとき、電源が“ACC”のまま約1時間放置すると、バッテリーあがり防止のため、自動的に電源が“OFF”になります。



アンテナから発する電波をアクセス キーが感知することによって、電源のロックが解除され、エンジンの始動、停止を行うことができます。

- アクセス キーを所持して車室内アンテナの作動範囲に入ると、プッシュ エンジン スイッチを押して、電源を“OFF”から“ACC”にすることができます。



電源の状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	はたらき
OFF	消灯	停止	ハンドルがロックされ、キーレス アクセスの通信を開始します。
ACC	橙色	停止	オーディオが聞ける状態です。
ON	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。
ON	消灯	回転中	通常走行中の状態です。

⚠️注意

- プッシュ エンジン スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったん電源を“OFF”にすると、エンジンを再始動できなくなることがありますので、ただちに、スバル販売店にご連絡ください。

👉アドバイス

ハンドル ロックを解除するには

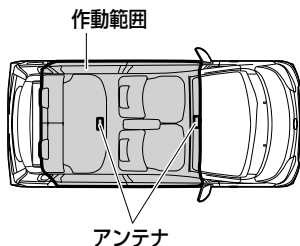
- エンジンの始動操作をしたときに、プッシュ エンジン スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、ハンドル ロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。
ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。



車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

○作動範囲

車室内です。



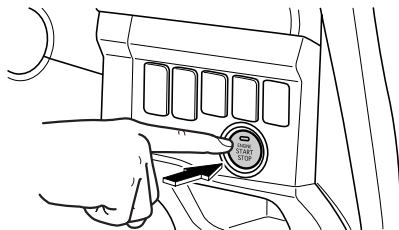
👉 アドバイス

- インストルメント パネルの上や中（グローブ ボックス内など）・荷室・ドア ポケット内など、電波を感知しない場所があります。
- 車外でもドアやドア ハンドルに近付きすぎた場合は、エンジン始動が可能になることがあります。
- エンジン始動後にアクセス キーを車外に持ち出さないでください。持ち出したままエンジンを停止すると、アクセス キーが車内に無いためにエンジンの再始動ができなくなります。特にドアを閉めたまま窓からアクセス キーを持ち出した場合は、持ち出しの警告ブザーが鳴らないので注意してください。

（セキュリティ表示灯→ 134 ページ）

○電源の切り替え

1. アクセス キーを携帯し、運転席に座ります。
2. ブレーキ ペダルを踏まずに、スイッチを押します。
スイッチを押すごとに電源が「OFF→ACC→ON→OFF」の順に切り替わります。



- ブレーキ ペダルを踏んでいないときは、エンジンは始動しません。
- 車両が停止していないときは、電源を“ON”から“OFF”にしないでください。
- 電源を“ACC”にするとセキュリティ表示灯が消灯します。

（セキュリティ表示灯→ 134 ページ）



⚠️注意

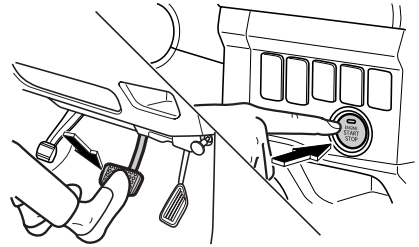
- スイッチを押したとき、セキュリティ表示灯が消灯せず、高速で点滅したときは、アクセス キーが作動範囲外にある可能性があります。アクセス キーを確認してください。
- 車両のバッテリーがあがっている場合ハンドル ロックが作動しません。

👉アドバイス

- 電源が“ACC”または“ON”のときは、作動表示灯が橙色に点灯します。
- スイッチを早押しした場合、電源が切り替わらないことがあります。目的の電源の状態になるまで、1 回ずつ確実に押してください。
- 電源が“ACC”のときに運転席ドアを開けると、ブザー（断続音）が鳴り、電源の切り忘れを警告します。
- 運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にするとハンドル ロックが作動しません。
このとき、警告ブザー（断続音）が鳴り、ハンドルがロックされていないことを警告します。運転席ドアを閉めて、警告ブザーを停止させてください。

○エンジンの始動

1. アクセス キーを携帯し、運転席に座ります。
2. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
3. ブレーキ ペダルを踏みながら、スイッチを押します。



- ブレーキ ペダルを踏んでいないときは、エンジンは始動しません。
- エンジンを始動するとセキュリティ表示灯が消灯します。
(セキュリティ表示灯→ 134 ページ)
- エンジンを始動すると、作動表示灯は消灯します。
- ブレーキ ペダルを踏みながらスイッチを押せば、どの電源の状態からでもエンジンを始動することができます。



車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

アドバイス

- エンジンが始動しない場合、ブレーキペダルを踏まずにスイッチを押して、一度電源を“OFF”にしたあと、再度ブレーキペダルを踏みながら、もう一度スイッチを押してください。
- エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンが始動できない場合があります。この場合は約 10 秒以上待ってから、再びエンジンの始動操作を行ってください。
- スイッチを早押しした場合、エンジンが始動・停止しないことがあります。
- 電源が“ACC”のときに運転席ドアを開けると、ブザー（断続音）が鳴り、電源の切り忘れを警告します。

ハンドル ロックを解除するには

- エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せずに、スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負担により、ハンドルロックが解除されていません。ハンドルを左右に動かしながら、ブレーキペダルを踏み、スイッチを押し直してください。

○エンジンの停止

車両を完全に停止させ、セレクトレバーをⓂレンジにし、スイッチを押します。

- 電源が“OFF”になり、エンジンが停止します。

警告

- 下記の操作を行うと、走行中でもエンジンが止まります。ただし、緊急時以外は走行中にプッシュエンジンスイッチの操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- プッシュエンジンスイッチを 3 秒以上押し続ける
- プッシュエンジンスイッチを 3 回以上連打する

注意

- セレクトレバーがⓂレンジ以外の場合、エンジンを停止させないでください。セレクトレバーがⓂレンジ以外でエンジンを停止した場合、電源が“ACC”になるため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。

アドバイス

- セレクトレバーがⓂレンジ以外でスイッチを押すと、電源は“ACC”になります。セレクトレバーをⓂレンジにして、電源を“OFF”にしてください。



アドバイス

- 運転席ドアが開いているときに、電源を“ON”から“OFF”にするとハンドルロックが作動しません。このとき、警告ブザー（断続音）が鳴り、ハンドルがロックされていないことを警告します。運転席ドアを閉めて、警告ブザーを停止させてください。

○電池の消耗などにより、アクセスキーが使用できないとき
プッシュ エンジン スイッチにアクセスキー、またはメイン キーを接触させることで、電源を“ON”にすることができません。

(アクセス キーが使用できないとき
→ 279 ページ)

キー インター ロック

キーレス アクセス装着車以外

誤操作防止のため、セレクト レバーがPレンジ以外のときに、エンジン スイッチが“LOCK”の位置まで回らないようにする装置です。

▼操作方法

エンジン スイッチを“ACC”から“LOCK”の位置にするときは、セレクト レバーをPレンジにしてから行います。

注意

- セレクト レバーがPレンジ以外では、キーは“LOCK”位置まで回すことができないため、キーを抜くことができません。





車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

イモビライザー機能

キーレス アクセス装着車

車両の盗難防止のため、アクセス キーおよびメイン キーには信号アンテナが内蔵されており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンの始動ができません。

▼操作方法

- 電源を“OFF”にすると、イモビライザー機能が作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。
(セキュリティ表示灯→ 134 ページ)
- 電源を“OFF”から“ACC”にすると、イモビライザー機能が解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



アドバイス

- セキュリティ表示灯は盗難警報装置と兼用しているため、キーレス アクセス操作・電波式リモコン ドア ロックによりドアを施錠すると、約 30 秒間点灯にかかります。
また、盗難警報装置が解除されていない場合は、電源を“ACC”にしても消灯しない場合があります。
- アクセス キー、メイン キーに登録された信号はキーごとに異なります。

駐車ブレーキ

⚠注意

- 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、ブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。

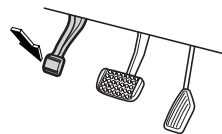
駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼かけるとき

- 右足でブレーキ ペダルを踏みながら、左足でパーキング ペダルをいっぱいまで踏み込みます。
- 電源が“ON”のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。

▼解除するとき

- 右足でブレーキ ペダルを踏みながら、左足でパーキング ペダルを踏み込みます。「カチッ」という音がしたらパーキング ペダルをゆっくり戻します。
- 電源が“ON”のときは、ブレーキ警告灯が消灯します。





⚠️注意

- 駐車ブレーキをさらに強くかける必要がある場合はブレーキペダルをしっかり踏み、一度駐車ブレーキを解除させ、完全にパーキングペダルを戻してからもう一度駐車ブレーキをかけ直してください。
- 駐車ブレーキをかけるとき、解除するときは必ずペダルの位置を目で確認してから操作してください。

👉アドバイス

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。
(ブレーキ警告灯→ 138 ページ)

坂道に駐車するとき

▼操作方法

坂道に駐車するときは、駐車ブレーキをかけるとともに、セレクトレバーをPレンジに入れます。さらに輪止めもしてください。

ターボ車

オプション/グレード別装備

⚠️注意

- エンジン始動直後（エンジンが冷えているとき）は、エンジンの急激な空ぶかし、または急加速をしないでください。
- エンジン回転数がタコメーターの赤色表示域（エンジン許容回転数以上）に入らないように運転してください。
- 定期的なオイル交換、オイルフィルターの交換を必ず行ってください。

高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、必ず約 1 分程度アイドリング状態にしてからエンジンを止めてください。

運転状態	アイドリング時間
一般走行後	—
高速走行後、登坂走行後	約1分



車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

AWD車

オプション/グレード別装備

⚠️注意

- AWD車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。
また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- AWD車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

フル タイムAWDシステム

👉アドバイス

- フル タイムAWDシステムは、2WDとAWDを切り替えるモード切り替えスイッチはありません。またAWD表示灯もありません。

AWD車のタイヤ交換

AWD車は4つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。

タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

⚠️注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤ交換をするときは、4輪とも同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、および同一トレッド パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

👉アドバイス

- タイヤ空気圧の点検は最低でも月に1回行ってください。タイヤの空気圧が前輪と後輪で大きく異なるときは、車の性能が十分に発揮できません。（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- タイヤのローテーションは5,000kmごとに行ってください。タイヤ間で摩耗差があると車の性能が十分に発揮できません。
- タイヤ チェーンは必ず前輪に装着してください。



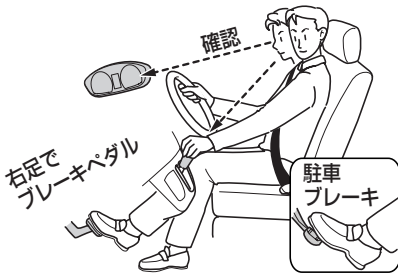
エンジンのかけかた

CVT車

エンジン始動の準備

▼操作方法

1. 駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーが回レンジの位置にあることを確認します。
2. ペダル類が確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるようにシートの位置を調整します。
3. アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルを右足で踏み位置を確認します。



エンジンをかけるとき

▼操作方法

プッシュ スタート装着車を除く

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みま
す。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エン
ジン スイッチを“START”の位置ま
で回します。

プッシュ スタート装着車

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みま
す。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、スイ
ッチを押します。

(プッシュ エンジン スイッチ
→ 158 ページ)

⚠注意

- エンジン始動時は、必ず運転席に座っ
てエンジンをかけてください。窓越し
からエンジンをかけると車が急に動き
出すおそれがあり危険です。
- エンジン冷却水温が低い間は、急激な
空ぶかし、急加速、高速走行はしな
いでください。



アドバイス

- エンジンの始動性を良くするためにランプ、リヤ ウインドウ デフォグガー、ヒーター ファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただしブレーキ警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドル回転に下がります。
- プッシュ スタート装着車でアクセスキーを使用してエンジン始動する場合、通信エラーなどでエンジンの始動ができないことがあります。このときは、ブレーキ ペダルを踏まずにスイッチを押して、一度電源を“OFF”にしたあと、再度ブレーキ ペダルを踏みながら、もう一度スイッチを押してください。

○エンジン スタート サポート

エンジン スタート サポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。

エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジン スイッチを“START”の位置で保持する（プッシュ スタート装着車はスイッチを押し続ける）必要はありません。



アドバイス

- エンジン スタート サポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置（プッシュ スタート装着車は電源を“ACC”または“OFF”）にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジン スタート サポート作動中に始動操作が中断されることがあります。



エンジンを止めるとき

▼操作方法

プッシュ スタート装着車を除く

エンジンを止めるときは、アイドリング回転にしてからエンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にします。

プッシュ スタート装着車

エンジンを止めるときは、アイドリング回転にしてからスイッチを押します。

(プッシュ エンジン スイッチ
→ 158 ページ)

⚠注意

- ターボ車は、高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、必ずアイドリングを 1 分程度行ってください。



CVT車の運転

CVT車

CVT車は、ギヤ チェンジやクラッチ ペダルの操作から解放され、運転は大変楽になります。いくつかの特性があります。CVT車の運転の基本を理解し、正しく操作する習慣を身に付けてください。

CVT車の特性

○クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクト レバーがP、Nレンジ以外の位置で動力が繋がった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

△注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がリ（アイドル アップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。

👉 アドバイス

- 停車中は、平坦時であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

セレクト レバー

セレクト レバーの操作は確実に行ってください。

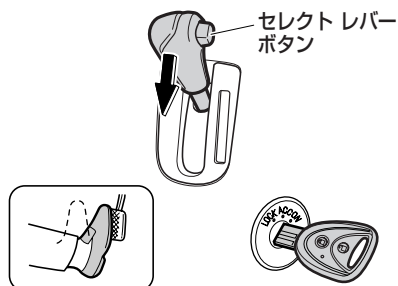
○シフト ロック装置

誤操作防止のため、シフト ロック装置が付いています。

▼シフト ロック解除方法

プッシュ スタート装着車を除く

エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にし、ブレーキペダルを踏むと、セレクト レバーの操作ができます。



プッシュ スタート装着車

電源を“ON”にし、ブレーキペダルを踏むと、セレクト レバーの操作ができます。



👉 アドバイス

- セレクト レバーはブレーキ ペダルを踏みながらでないと、**P**レンジからほかのレンジへは動きません。
- 先にセレクト レバー ボタンを押した状態で、ブレーキ ペダルを踏むと、セレクト レバーが動かない場合があります。一度ボタンから手を離し、ブレーキ ペダルを先に踏んでから操作してください。

プッシュ スタート装着車を除く

- エンジン スイッチが“LOCK”の位置では、ブレーキ ペダルを踏んでもセレクト レバーは**P**レンジからほかのレンジへは動きません。

プッシュ スタート装着車

- 電源が“ON”以外では、ブレーキ ペダルを踏んでもセレクト レバーは**P**レンジからほかのレンジへは動きません。

○シフト ロック解除ボタン

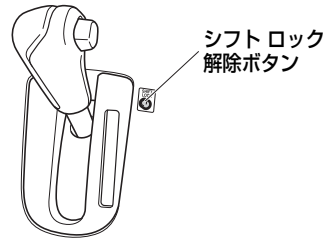
プッシュ スタート装着車

シフト ロックを解除するためのボタンです。バッテリーあがりなどで、セレクト レバーが**P**レンジからほかのレンジへ動かないときに使用します。

▼シフト ロック解除方法

ブレーキ ペダルを踏んだ状態で、シフト ロック解除ボタンを押しながら、セレクト レバーを操作します。

- 必ずブレーキ ペダルを踏みながら操作してください。

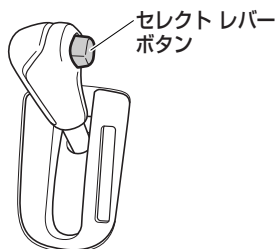




車を運転するにあたって CVT車の運転

セレクト レバーの操作

セレクト レバー部には、セレクト レバーを動かすときに使用するセレクト レバー ボタンが装着されています。



▼ 操作する前に

⚠ 警告

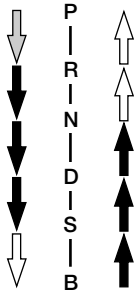
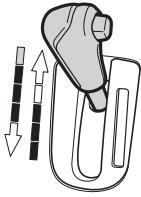
- PレンジからRレンジへセレクト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、セレクト レバー ボタンを押して動かしてください。

各位置のはたらき

Pレンジ	駐車するとき、エンジンを始動するとき、およびキーを抜くときの位置
Rレンジ	車を後退させるときの位置 (車が完全に止まってから入れてください)
Nレンジ	一時停止などで動力を伝えない位置
Dレンジ	通常の走行をする位置 [前進] (速度に応じて無段階で自動的に変速されます)
Sレンジ	上り坂や下り坂を走行するときの位置 [前進] (エンジン ブレーキが必要なときの位置)
Bレンジ	急な上り坂や下り坂を走行するときの位置 [前進] (強いエンジン ブレーキが必要なときの位置)



セレクト レバーの動かしかた



↓ ブレーキ ペダルを踏みながら
セレクト レバー ボタンを押して
動かします。

↑ ↓ セレクト レバー ボタンを押して
動かします。

↑ ↓ そのまま動かします。

⚠警告

- ➡の操作は誤作動を防ぐため、セレクト レバー ボタンを押さずに動かしてください。常にセレクト レバー ボタンを押して操作していると、**P**・**R**・**N**・**D**レンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中に**N**レンジに入れしないでください。エンジン ブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が完全に止まらないうちに**P**レンジに入れしないでください。また、前進走行中に**R**レンジ、および後退走行中に**D**・**S**・**B**レンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



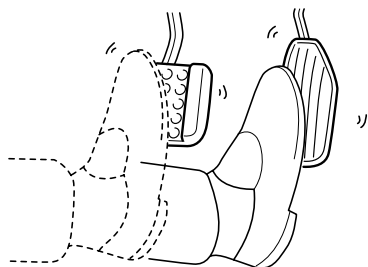


運転のしかた

エンジン始動前

▼ 操作を行う前に

アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの位置を右足で確認します。



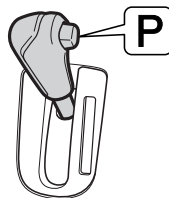
⚠ 注意

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキ ペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン始動時

▼ 操作手順

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。
2. セレクト レバーがPレンジにあることを確認します。
3. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
4. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置にします。（プッシュ スタート装着車は、ブレーキ ペダルを踏んだままスイッチを押します。）





発進時

▼操作を行う前に

⚠警告

- PレンジからRレンジへセレクトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキペダルを踏みながら、セレクトレバーボタンを押して動かしてください。
- アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

▼操作手順

1. ブレーキペダルを右足で踏んだままセレクトレバーを前進であればDレンジに、状況に応じてS、Rレンジに、また後退のときはRレンジに入れます。
2. 駐車ブレーキを戻したあと、徐々にブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくりと踏み込み発進します。

⚠注意

- セレクトレバーがどの位置にあるかをセレクトレバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- セレクトレバーがP、Nレンジ以外の位置にあると、アクセルペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。（クリープ現象）
- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドルアップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にセレクトレバー操作をするときはしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、CVT車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどでDレンジからRレンジ、RレンジからDレンジと何度もセレクトレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから行ってください。
トランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐためにPレンジからRレンジ、NレンジからDレンジ、NレンジからRレンジにセレクトレバー操作をするときもブレーキペダルをしっかりと踏んでから行ってください。
- 坂道発進時など、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。





車を運転するにあたって CVT車の運転

アドバイス

- セレクト レバーを[R]レンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にセレクト レバーが[R]レンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんが注意してください。

▼坂道発進する場合

1. 駐車ブレーキがしっかりかかっていることを確認しながら、セレクト レバーを[R]レンジに入れます。
2. 右足でアクセル ペダルをゆっくり踏み、車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進します。

アドバイス

- バッテリーとの接続が断たれ、接続を復帰させた直後は車両の動きがぎこちないことがあります。故障ではありません。

走行時

▼操作手順

1. 通常は[R]レンジで走行します。
2. 強い加速が必要な場合は、アクセルペダルを踏み込みます。
3. 長い下り坂や急な下り坂など、強いエンジン ブレーキを必要とする場合は、路面状態やスピードに応じて[S]レンジまたは[R]レンジに切り替えます。

警告

- 坂道などでは、セレクト レバーを[D]、[S]レンジまたは[R]レンジに入れたまま惰性で後退したり、[R]レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。



⚠️注意

- 走行中は N レンジに入れしないでください。エンジン ブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故の原因となります。
- 走行中に P レンジ、また前進走行中に R レンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損傷をあたえる原因となります。
- 滑りやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセル ペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂を D レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。
このようなときに、フット ブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
 S レンジにしてエンジン ブレーキを併用してください。また、より強いエンジン ブレーキが必要な場合は、 B レンジに入れてください。
- ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。
- 走行中にアクセル ペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。走行中、アクセル ペダルを踏んでいるときにブレーキ ペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

👉アドバイス

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリーブ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
- D レンジの走行中に急加速を行うと、車速の上昇よりもエンジン回転数の上昇が早く感じられますが、CVTの変速制御によるもので問題ありません。

燃費向上のために

- 発進、加速はスムーズに行ってください。
CVT車は、軽くアクセル ペダルを踏むだけでスムーズに加速します。





車を運転するにあたって CVT車の運転

一時停止時

▼ 操作手順

1. セレクト レバーは走行位置のままです。ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けます。
2. 停車が長びくときは、ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをNレンジに入れます。
3. 発進するときには、セレクト レバーの位置を確認したあと、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込みます。

⚠ 注意

- 上り坂での停止はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキ ペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。

後退時

▼ 操作方法

車が完全に止まってからも、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続け、セレクト レバーをRレンジに入れます。

⚠ 注意

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどはRレンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあととはすぐNレンジに戻すよう習慣付けましょう。
- 切り返しなどでDレンジからRレンジ、RレンジからDレンジと何度もセレクト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。



アドバイス

- セレクト レバーをRレンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にセレクト レバーがRレンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんがご注意ください。



駐車時

▼ 操作手順

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車
ブレーキをかけ、セレクト レバーを
Ⓟレンジに入れます。
3. エンジン スイッチを“LOCK”の位
置まで回してキーを抜きます。（プ
ッシュ スタート 装着車は、スイッチ
を押して電源を“OFF”にします）

⚠ 注意

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エンジンをかけたままで車から離れないでください。
- 車から離れるときはエンジン スイッチを“LOCK”の位置にしてキーを抜いてください。（プッシュ スタート 装着車は、スイッチを押して電源を“OFF”にします）
バッテリーあがりの原因となります。
- Ⓟレンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ずⓅレンジにあることを確認してください。
- 車が完全に止まらないうちにⓅレンジに入れないでください。トランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。

プッシュ スタート 装着車を除く

- キー インター ロック 装置により、セレクト レバーがⓅレンジ以外のときは、エンジン スイッチを“LOCK”の位置まで回すことができません。
(キー インター ロック → 163 ページ)



車を運転するにあたって

アイドリング ストップ システムの使いかた

アイドリング ストップ システムの使いかた

「アイドリング ストップ」*

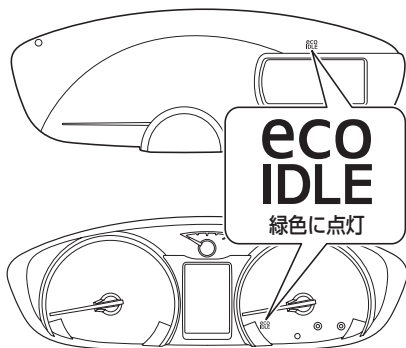
オプション/グレード別装備

「アイドリング ストップ」は、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで減速した際、停車前（約 7km/h）もしくは停車後に、燃費向上や排気ガス低減、アイドリング騒音低減のため、自動でエンジンを停止（アイドリング ストップ）、再始動させるシステムです。

アイドリング ストップ、エンジンの再始動のしかた

1. 走行中にアイドリング ストップが作動する条件を満たすと、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に点灯します。

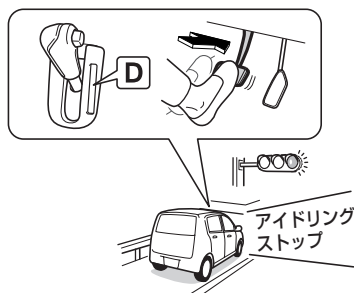
<スタンバイ状態>



2. ④レンジのままブレーキ ペダルを踏み減速すると、停車前（約 7km/h）もしくは停車後に、アイドリング ストップします。

「アイドリング ストップ」表示灯はアイドリング ストップ中も緑色に点灯し続けます。

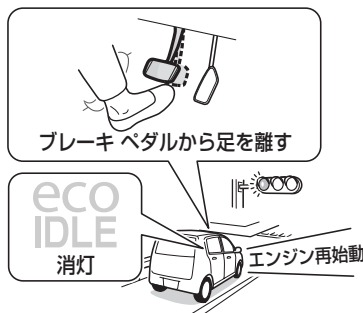
<アイドリング ストップ状態>



3. ブレーキ ペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

「アイドリング ストップ」表示灯は消灯します。

<エンジン再始動>



* 本書では、eco IDLEを「アイドリング ストップ」と表記しています。

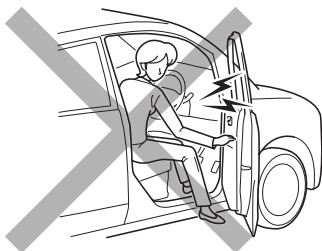


4. しばらく走行して、再びアイドリング ストップが作動する条件を満たすと、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に点灯します。

⚠警告

- アイドリング ストップ中は車外へ出ないでください。車外へ出ようとブレーキ ペダルから足を離すと、エンジンが再始動して車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- アイドリング ストップ中に運転席シートベルトを外したり、運転席ドアを開けたりすると、ブザーが鳴って警告します。

(警告ブザー→ 188 ページ)



⚠注意

- ブレーキ ペダルとアクセル ペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ ペダル操作は緊急時の反応が遅れることがあり危険です。
- アイドリング ストップ中は、ブレーキ ペダルを踏んだまま、アクセル ペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。
- 長時間停車するときや車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジン スイッチを操作してエンジンを停止させてください。





👉 アドバイス

アイドリング ストップ中の操作について

- アイドリング ストップ中に、セレクト レバーを👉から👍レンジ（または👓・👑レンジ）に操作してもアイドリング ストップは継続します。ただし、セレクト レバーを👍レンジに操作したあと他のレンジに操作すると、エンジンが再始動します。
- 右左折や合流時など、アイドリング ストップ中に事前に発進準備をしたいときは、下記の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
- ブレーキ ペダルをすばやく踏み増しする
- 「アイドリング ストップ」OFFスイッチを押す
（「アイドリング ストップ」OFFスイッチ→ 187 ページ）

アイドリング ストップ中のエアコンの作動について

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
- ブレーキ ペダルをすばやく踏み増しする
- 「アイドリング ストップ」OFFスイッチを押す

システムの作動条件について

○スタンバイ条件

下記の条件をすべて満たすと、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に点灯し、アイドリング ストップが作動可能な状態になります。

- 「アイドリング ストップ」OFFスイッチを押して、アイドリング ストップの作動を停止していないとき
（アイドリング ストップ作動停止中は、「アイドリング ストップ」表示灯が橙色に点灯します）
- エンジンが十分に暖まっているとき
- トランスミッション オイルが十分に暖まっているとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エンジン始動後に約 10km/h以上でしばらく走行したあと
（走行せずにアイドリング状態を続けていても、アイドリング ストップが作動しません）
- セレクト レバーが👉レンジのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シート ベルトを着用しているとき
- 外気温が約 0℃以上のとき
（メーター表示の外気温と異なる場合があります）
- フロント デフロスター スイッチが“OFF”のとき
- 車内温度が快適なとき



アイドリング ストップ システムの使いかた

- システム（「アイドリング ストップ」、エンジン電子制御、CVT、ABS、エアコン）が正常なとき

アドバイス

- 下記の場合、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
- 車両を長期間使用しなかったときなど、バッテリーが放電しているとき
- バッテリー交換などで、バッテリーの⊖端子をはずしたあと
- 冷房初期

○アイドリング ストップ条件

スタンバイ条件と下記の条件をすべて満たすと、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に点灯したまま、停車前もしくは停車後にアイドリング ストップします。

アドバイス

- 停車前と停車後のアイドリング ストップ条件が異なるため、停車前にアイドリング ストップしなくても、停車後にアイドリング ストップすることがあります。

停車前アイドリング ストップ条件

- 車速が約 7km/hになったとき
- ブレーキ ペダルを踏んでいるとき
- アクセル ペダルを踏んでいないとき
- ライティング スイッチが“OFF”のとき
- フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチが“OFF”のとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABSが作動していないとき

アドバイス

- 下記の場合、停車前アイドリング ストップしない場合があります。
- ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
- ブレーキ ペダルを踏む力が弱いとき
- 勾配のある坂道を走行しているとき
- ゆるやかに減速しているとき



停車後アイドリング ストップ条件

- 車両が停車しているとき
- ブレーキ ペダルを踏んでいるとき
- アクセル ペダルを踏んでいないとき
- ABSが作動していないとき

アドバイス

- 下記の場合、停車後アイドリング ストップしない場合があります。
- ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
- ブレーキ ペダルを踏む力が弱いとき
- 急勾配の坂道で停車したとき

○エンジン再始動条件

アイドリング ストップ中に、下記のいずれかの操作を行うと、エンジンが再始動します。

- ブレーキ ペダルから足を離す
- ブレーキ ペダルをすばやく踏み増しする
- アクセル ペダルを踏む
- セレクト レバーを[R]・[P]レンジに操作する
- セレクト レバーを[N]レンジに操作したあと、他のレンジに操作する
- 「アイドリング ストップ」OFFスイッチを押して、システム作動を停止する
- フロント デフロスター スイッチを“ON”にする

アドバイス

エンジンの再始動について

- 下記の場合でも、アイドリング ストップ中にエンジンが再始動し、クリープ現象*が発生しますので、ブレーキペダルはしっかりと踏み続けてください。
- アイドリング ストップ中に、アイドリング ストップが作動可能な条件を満たさなくなった場合（「アイドリング ストップ」表示灯は緑色に点滅後消灯）
 - ・ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下したとき
 - ・坂道などで停止状態から車両が動き出したとき
 - ・停車前アイドリング ストップ中に下り坂などで加速したとき
 - ・バッテリーの放電量が多いとき
 - ・警告灯（エンジン、CVT、ABS）が点灯するなど、各システムに異常が発生したとき
 - ・エアコンの制御システムに異常が発生したとき
 - ・冷房時はエアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき
 - ・アイドリング ストップしてから約3分経過したとき

* エンジンがかかっているとき、セレクト レバーが[P]、[N]レンジ以外の位置で動力がつかなくなった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと車両が動き出す現象。



アドバイス

- アイドリング ストップ中、「アイドリング ストップ」システムに異常が発生した場合、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期になった場合（「アイドリング ストップ」表示灯は橙色に点滅）

アイドリング ストップ時間が短くなる場合

- 下記の場合、アイドリング ストップ時間が短くなる場合があります。
- 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にアイドリング ストップしたとき
- 電装品などの消費電力が大きいとき

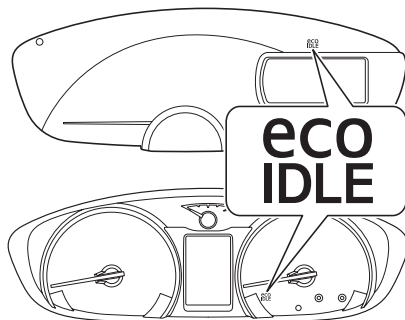
エンジンが再始動しない場合

- 下記の場合、警告ブザーが鳴って「アイドリング ストップ」表示灯が点滅し、安全確保のためブレーキ ペダルから足を離しても、エンジンは再始動しません。
- アイドリング ストップ中にボンネットを開けたとき
(警告ブザー→ 188 ページ)

エンジン再始動時の電装品の動作について

- オーディオの音量が大きいなど、アイドリング ストップ中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時に下記の電源が一時的に“OFF”になることがあります。
- オーディオ
- カー ナビゲーション（別売）
- アイドリング ストップからエンジンが再始動すると、アクセサリ ソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。

「アイドリング ストップ」* 表示灯／警告灯



「アイドリング ストップ」に関する操作状況、車両の状態、システムの異常をお知らせします。

○ 緑色点灯

- 電源を“ON”にしたとき
(数秒後消灯)
- アイドリング ストップが作動可能な条件を満たしたとき
<スタンバイ条件成立>
- アイドリング ストップ中

○ 消灯

- アイドリング ストップからエンジンが再始動したとき
- アイドリング ストップが作動可能な条件を満たしていないとき
<スタンバイ条件不成立>

* 本書では、eco IDLEを「アイドリング ストップ」と表記しています。



○緑色で低速点滅後、消灯

- アイドリング ストップ中に、アイドリング ストップが作動可能な条件を満たさなくなり、エンジンが再始動したとき

○緑色で高速点滅

アイドリング ストップ中に下記の状態になると、高速点滅すると同時に警告ブザーが鳴ります。

- 運転席シート ベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- ボンネットを開けたとき
(警告ブザー→ 188 ページ)

○橙色点灯

- 「アイドリング ストップ」OFFスイッチを押して、アイドリング ストップの作動を停止したとき
(「アイドリング ストップ」OFFスイッチ→ 187 ページ)

○橙色点滅

- 「アイドリング ストップ」システムに異常があるとき
- エンジン部品 (スターター) やバッテリーが交換時期のとき

⚠注意

橙色に点滅した場合

- スバル販売店で点検を受けてください。

アイドリング ストップ時間表示

アイドリング ストップ時間を、メーターのディスプレイに表示できます。

(オドノトリップ表示切り替え・リセット スイッチ→ 123 ページ)



アイドリング ストップ システムの使いかた

「アイドリング ストップ」* OFFスイッチ

「アイドリング ストップ」の作動を停止したいときにスイッチを押します。

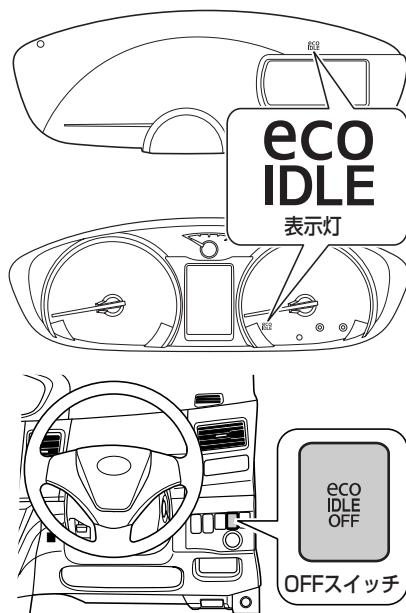
▼操作方法

スイッチを押すと、アイドリング ストップは作動停止状態になり、メーター内の「アイドリング ストップ」表示灯が橙色に点灯します。

もう一度スイッチを押すと、アイドリング ストップが作動可能になり、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に点灯します。

(アイドリング ストップが作動可能な条件を満たしていないときは、消灯します)

(「アイドリング ストップ」
表示灯/警告灯→ 185 ページ)



👉 アドバイス

- アイドリング ストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、アイドリング ストップは作動停止状態になります。(「アイドリング ストップ」表示灯は橙色に点灯します)
- 「アイドリング ストップ」はエンジン スイッチ操作によるエンジン始動をするたびに、作動可能状態に戻ります。

* 本書では、eco IDLEを「アイドリング ストップ」と表記しています。



警告ブザー

アイドリング ストップ中に、運転席シートベルトを外したり、運転席ドアやボンネットを開けたりすると、警告ブザーが鳴ります。

○運転席シートベルトを外したとき
警告ブザー（断続音）が鳴り、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に高速で点滅します。

アイドリング ストップは継続します。

▼対処方法

運転席シートベルトを確実に着用してください。警告ブザーが止まります。

○運転席ドアを開けたとき

警告ブザー（断続音）が鳴り、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に高速で点滅します。

アイドリング ストップは継続します。

▼対処方法

運転席ドアが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。警告ブザーが止まります。

○ボンネットを開けたとき

警告ブザー（断続音）が数秒間鳴り、「アイドリング ストップ」表示灯が緑色に高速で点滅します。

安全確保のため、通常のエンジン停止状態になります。（エンジン警告灯・チャージ警告灯・オイルプレッシャー警告灯も同時に点灯します）

▼対処方法

ボンネットが開いていないか確認し、確実に閉めてください。

セレクトレバーをPレンジに操作してから、エンジンスイッチを操作して、エンジンを始動してください。

車を運転するにあたって アイドリング ストップ システムの使いかた



ヒル スタート アシスト

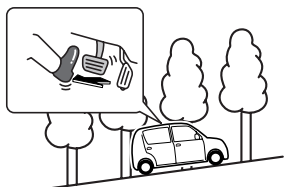
アイドリング ストップからブレーキ ペダルを緩めてエンジンが再始動する際、最長約 2 秒間ブレーキ力を保持するシステムです。

坂道発進時の後退を軽減します。

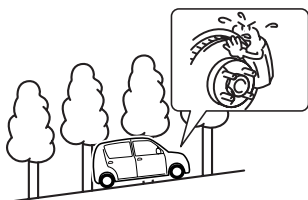
ただし、アイドリング ストップしていないときは作動しません。

▼ 作動の流れ

1. ブレーキ ペダルを踏む力を緩める



2. ブレーキ力保持



3. エンジン再始動



4. 発進



⚠ 警告

- ヒル スタート アシストは、坂道で車両を停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキ ペダルを緩めると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒル スタート アシストを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。常に周囲の状況を確認して、適切にセレクト レバー、ブレーキ ペダル、アクセル ペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキ ペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。





⚠警告

- ゆるやかな上り坂で停車前（約7km/h）アイドリング ストップしたあと、車両が停止する前にアクセル ペダルを踏んで再加速しようとした場合、車両が後退することがあります。車両が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキ ペダル、アクセル ペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または急な上り坂では、システムが作動していても、車両が後退することがあります。駐車ブレーキをかけたりするなどして発進してください。

👉アドバイス

- ヒル スタート アシストの作動により、下記の状態になることがあります。異常ではありません。
- ブレーキ ペダルの踏みごたえが変わる
- ブレーキ ペダルが振動する
- ブレーキから音が発生する
- ヒル スタート アシストは、坂道だけではなく、平坦な道路でも作動します。

「アイドリング ストップ」専用 バッテリー

「アイドリング ストップ」装着車は、高性能な専用バッテリーを搭載しています。バッテリーを交換するときは、この車専用のスバル指定バッテリーに交換してください。

（「アイドリング ストップ」専用
バッテリー→ 323 ページ）

⚠注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリング ストップが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。アイドリング ストップが正常に作動しなくなります。

👉アドバイス

- バッテリーは定期的に充電することで、長持ちさせることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。



発電制御

発電制御

「アイドリング ストップ」装着車

減速時の発電によってバッテリーを集中充電することにより、走行中（加速やクルージングなど）の発電を抑制、燃料消費量を低減させ、燃費を向上させる効果があります。





車両制御装置の使いかた

ecoドライブ モード

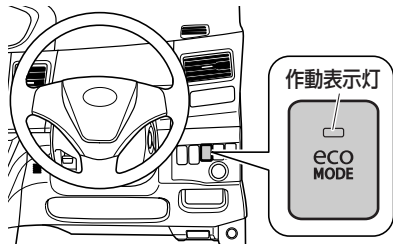
メーター内のエコ表示が示す、エコ運転（二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転）の判定を厳しくすることで、運転者に、よりエコな運転をうながすとともに、エアコンをecoドライブ モードに切り替えます。

(エコ表示→ 130 ページ)

▼モードの切り替えかた

ecoドライブ モード スイッチを押して、ecoドライブ モードの“ON”、“OFF”を切り替えます。

- “ON” のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。



👉 アドバイス

- ecoドライブ モードが“ON” のときは、エアコンの冷房機能を抑えるはたらきがあるため、冷房の効きが弱く感じられることがあります。

